



園だより

～きづき～

キ3園 第81号

2025年12月号

キッズワールドサード保育園

園長 是永 妃富

子ども達それぞれが、自分のペースで大きくたくましく成長してきた一年を振り返るこの頃です。あっという間に今年最後の月になりました。寒い日もありますが、天気の良い日は、戸外に出て元気に遊びたいと思います。

また、先月の運動会ごっこでは、ご参加いただきましてありがとうございました。

子どもたちの笑顔、保護者の方の笑顔を見ることができ、大変うれしく思いました。ご協力、に心より感謝いたします。。



- 10日(水) 身体計測
- 18日(木) 健康診断
- 23日(火) 合同避難訓練
- 24日(水) クリスマス会

お弁当当日は **12月27日(土)**です

お知らせ お願い



- ・12/28～1/4まで年末年始の為、休園になります。
最終登園日には荷物等をお持ち帰り洗濯をお願いします。
- ・年末年始は、出かけたり、多くの人と過ごしたりする機会多いかと思いますが、事故や食べ過ぎ等に十分お気をつけください
- ・インフルエンザ、コロナ感染症、ノロウイルスなどが流行しています。
手洗いなどで予防しましょう。
- ・1日保育士を受け付けています。担任に声掛けしてください。日程調整をします。

11月子どもたちの様



・気候のいい季節でした。散歩に出かけたり、園庭で遊んだり、外での活動の多い月でした。外に出る前は靴下をはいて靴を履くところから、活動の始まりです。準備ができると出発です。行きはよいよいですが、帰りは疲れた、お腹がすいたりして機嫌が悪くなることもしばしばありました。2歳児さんは1歳児さんの手を引いたりして微笑ましい姿もありました。0歳児さんはカートですやすやしています。外に出ると、風・音・匂いなどを体で感じています。体が強くなります。これで、運動会も頑張りました。

子どもが望む大人の世界～17の子どもの願い～



子育てに大切なことを知らせてくれています。是非お読みください。

キッドエッセイ74 牧野桂一先生

前回は紙面の都合で説明しきれなかった⑦項目以下の内容を今回は順次紹介していきたいと思います。

⑦子どもの心に共感してあげる



子どもと喜びを共にして、悲しみを分かち合うことが子どもの心への共感です。子どもへの心への共感は、子どもの気持ちを理解し、それを正面から受け止め、信頼関係を築き、自己肯定感を高め、親子の良好な人間関係を築きます。具体的には、子どもの話に耳を傾け、「嬉しいね」「良かったね」「そうだよね」「悔しいね」「つらかったね」などの気持ちを言葉にして子どもに寄り添うことです。

子どもたちは、いつも人間関係の中に生きています。それを生活の場で実感するのが、子どもへの共感なのです。子どもは、自分の嬉しかったことに周りの人が共感してくれると、その喜びは二倍にも三倍にもなります。悲しいことに共感して貰うと、その悲しみは半分になって気持ちが落ち着いてきます。

大人が子どもの感情に寄り添い、それを言葉で示すと、子どもは「自分の気持ちが理解されている」という安心感を抱き、様々な感情の表現を身につけていきます。このように喜びも悲しみも周りのみんなで分かち合うと、子どもは二倍も三倍も幸せになります。

少し突っ込んで考えると、親や周りの大人が子どもの気持ちを受け止め、共感してくれると、子どもは、「自分のことを分かってくれている」と感じ信頼感を深めるのです。この自分が共感されるという体験を通して、子どもは「人の気持ちを理解する」ことができるようになり、対話的能力を高めていきます。このような共感力のある子どもは、困っている人を助けたり協力したりして喜びを分かち合い、相手の感情を理解し、思いやりのある行動が取れるようになります。

また、自分の感情を否定されずに受け入れられる共感の経験は、「あるがままの自分をこれで良い」と肯定できる自己肯定感や自尊感情を育むことにも繋がります。これは、挫折や失敗を乗り越えて生きていくための大きな土台となります。さらに、共感力が高くなると友だちや先生など家族以外の人との関係もよくなり、心の成長や良好な人間関係を築き成長してからも社会でスムーズな人間関係を築く力ができるようになります。

このような共感の経験を積み重ねるのには、親子の関わりが必要ですが、ここで親ができる具体のこととして、子どもが喜んでいる時も、悲しんでいる時も、子どもの感情を「楽しかったね」「悔しかったんだね、つらかったね」などそのまま言葉や態度で示してあげることです。また、ネガティブな怒りや悲しみの感情もすぐに「ダメ」と抑えつけるのではなく、まずは「そういう気持ちもあるよね」と共感して受け止め、興奮を鎮めることが大切です。さらに、親が家族や周りの人の気持ちに配慮しながら共感する姿を子どもに見せることで、子どもは共感の大切さを学び真似するようになります。



⑧子どもとした約束は守って上げる

子どもとの約束を守ってあげると、子どもは安心して親子の信頼関係ができます。それは、対人関係においても、家庭生活においても、社会生活においても生活の基本になります。子どもが家族や友人とする約束は、お互いの信頼関係の上で成り立っています。子どもとの約束を破れば大人としての信用をなくしてしまいます。したがって、子どもとの約束を守ることは、親子の間に強い信頼関係を築くこととなり子どもの成長にとっても非常に大きな影響があります。親が約束を簡単に破ってしまうと、子どもは親の言葉を信じなくなり、「どうせ口だけだから」「自分のことは大切に考えてくれない」と考え、自己肯定感が低下してしまいます。

約束に対しては、子どもにも一人の人間として真摯な態度で接すると子どもは、親に対して「自分との約束は必ず守ってくれる」「自分を大切に思ってくれている」という信頼と期待を抱きます。また、約束を守ることは、子ども自身の行動を制御する力、つまり自己管理能力を育むことにもつながります。これらのことにより、子どもたちが将来社会で活躍するための土台が築かれます。さ

らに、約束を守るということは、いろいろな約束事を守るという経験にも繋がり、子どもは社会のルールを守ることの大切さを学びます。このように約束を守る力は社会生活を送る上で不可欠であり、集団生活に適応するためにもなくてはなりません。

子どもが約束を守るようになるためには、子どもの年齢に合わせて、なぜその約束が大切なかを説明し、納得した上で約束を交わすことが重要です。また、親が自ら約束やルールを守る姿を見せることで、子どもも「大人も約束を守っているんだ」と認識し、より現実的に約束を受け入れることができます。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回に

- ⑨ボディティープな言葉かけをする
- ⑩よく褒めて励ます ⑪一人一人の違いに応じた対応をする
- ⑫子どものしていることに驚きを持つ
- ⑬あるがままを受け入れる
- ⑭明るくてほほ笑みの多い保育者
- ⑮ユーモアに富んだ保育者
- ⑯子どもの名前を呼んであげる
- ⑰人として美しくなどについて紹介していきたいと思います。

子どもは、親に甘えたいのです。一緒にいてふれあい、遊んで、ほしいのです。つい大人は忙しさや自分のことでいっぱいになりがちですが、今大いに共感し、過ごすのは大人になる子ども達には大切なことです。かわいい子ども達との時間を大切にしてください。



少し早いのですが、今年も大変お世話になりました。ありがとうございました。
くる年も皆さまにとって、良い年になりますように願っております。

職員一同

